

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
編集者：代表幹事 高橋 賢一  
連絡先：市民活動支援センター  
尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
(渋川福祉センター内)  
TEL 0561-51-2878



都下の面白さというのは、もともとそこにある土地や川などの自然の地形や水辺の景観を人間がどう読み込んで、どう活かしたかというところ。そこに文化が生まれて舞舞台が成立する。

土木を通じ  
て江戸東京  
のまちを捉  
え直す。



土木構造物は、風景の骨格をつくっている。やはり土木構造物は建築物と比べて圧倒的に寿命が長い。

昭和初期につくられた橋は、多分の修理はしているんでしようか、かたは成りうるし、しかし近代建築はほとんどいなくなっている。土木の視点で見ると、こんなに躍動的なまちは他にない。地形そのものかまます個性のたし、江戸時代からその地形と絡み合ってきた土木が、景観として積み重なっている。



東京の論を契機に都会を木材の大消費地に。

東京は地形の多様性が世界一ではないかと思う。東京は坂が全方向に下るまち。なぜかというところ、海に面したデルタ地帯を開墾したから、人間が地形を読み込んで掘り埋め立てたりしてまちをつくらした。こうした土木的な地形は、江戸時代の初期にかなり完成して、それを近代でさらにアップデートしていった。新しいものが積み重なるのではなく、その身近な風景も新鮮は見えてきます。江戸時代につくられた骨格地形、インフラ的な構造があるその上にも、このインフラをいれた、そして、建築も取り込んで、風景が重層化したから、迫力がある。

木を感じ、森に還る。

